

持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発 公開成果発表会の開催

環境省「環境研究総合推進費」による研究プロジェクトとして、「S-13 持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」が、平成26年度から5年間の予定で、柳哲雄（公財）国際エメックスセンター特別研究員をプロジェクトリーダーとして開始されました。

この研究は、5つの研究テーマについて15の研究機関が相互に連携して研究を行い、「統合的沿岸海域モデル」を構築し、これを環境行政施策に反映させることにより、『**きれいで、豊かで、賑わいのある持続可能な沿岸海域実現**』をめざそうとするものです。

成果発表会は、この研究の一環として、関係者における情報共有・相互理解促進のために開催するもので、S-13プロジェクト参加機関、行政機関、研究機関、関連団体、海域環境の保全・創造に関心のある皆様を主な対象としています。

日時：平成26年11月21日（金） 13:00～17:30

参加費は無料です。

場所：三宮研修センター（神戸市中央区八幡通4丁目2-12 FR IIビル 神戸市役所東正面）

内容：

13:05～ テーマ1 閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理手法の開発

13:35～ テーマ2 開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における沿岸環境管理法の開発

14:35～ テーマ3 陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発

15:45～ テーマ4 沿岸海域の生態系サービスの経済評価

16:45～ 総括・テーマ5 沿岸海域管理のための統合数値モデル構築

17:00～ 総合討論

（詳細は裏面をご覧ください。）

主催：環境省「環境研究総合推進費」 S-13 プロジェクト
「持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」
公益財団法人国際エメックスセンター

【お問合せ・参加申込先】

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号
人と防災未来センター 東館5階

（公財）国際エメックスセンター（担当：矢内・梅本）

TEL 078-252-0234 FAX 078-252-0404

E-mail secret@emecs.or.jp

参加ご希望の方は、**裏面の申込書**に必要事項ご記入の上、（公財）国際エメックスセンターへ、ファクシミリまたは電子メールでお申込みください。

* 定員（100名）になり次第締め切ります。

【会場案内：三宮研修センター】



【発表内容の詳細】

テーマ1 閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理手法の開発		
栄養塩濃度管理法開発	西嶋 渉	広島大学
干潟・藻場の栄養物質循環・生物再生産に果たす機能の解明	多田 邦尚	香川大学
テーマ2 開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における沿岸環境管理法の開発		
遷移する沿岸環境監視とそれを応用した沿岸海域管理法開発	小松 輝久	東京大学
森一川一海の栄養物質輸送機構の解明	門谷 茂	北海道大学
森一海の物質輸送に果たす有機物の役割解明	吉村 千洋	東京工業大学
森一海の物質輸送に果たす有機物の役割解明	西村 修	東北大学
テーマ3 陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発		
国際的閉鎖性海域の管理法提案	吉田 尚郁	環日本海環境協力センター
日本海環境変動予測モデルの構築	森本 昭彦	名古屋大学
日本海環境変動予測モデルの構築	広瀬 直毅	九州大学
日本海高次生態系モデルの構築	郭 新宇	愛媛大学
休憩		
テーマ4 沿岸海域の生態系サービスの経済評価・統合沿岸管理モデルの提示		
生態系サービスの経済評価	仲上 健一	立命館大学
沿岸海域三段階管理法提案	日高 健	近畿大学
人文科学的考察に基づく市民と沿岸海域を結ぶ物語の発見・構築・継承	印南 敏秀	愛知大学
対馬・五島の海洋保護区における漁業活動調整	清野 聡子	九州大学
総括, テーマ5 沿岸海域管理のための統合数値モデル構築	柳 哲雄	国際エメックスセンター
総合討論		

環境研究総合推進費 S-13 公開成果発表会 参加申込書

お名前	所属	役職等	電話	E-mail

申込書送付先: FAX 078-252-0404 E-mail secret@emecs.or.jp